

# 大分市の小中一貫教育

(令和6年度版)

## 学校や地域の実情に応じた小中一貫教育の推進



賀来ウインターイングリッシュキャンプ  
(賀来小中学校)



中学校体験入学  
(佐賀関中学校区)



実践発表校研究発表会  
(大東中学校区)



小中一貫教育推進フォーラム



碩煌祭  
(碩田学園)

大分市教育委員会

# 1 大分市の小中一貫教育

## ねらい

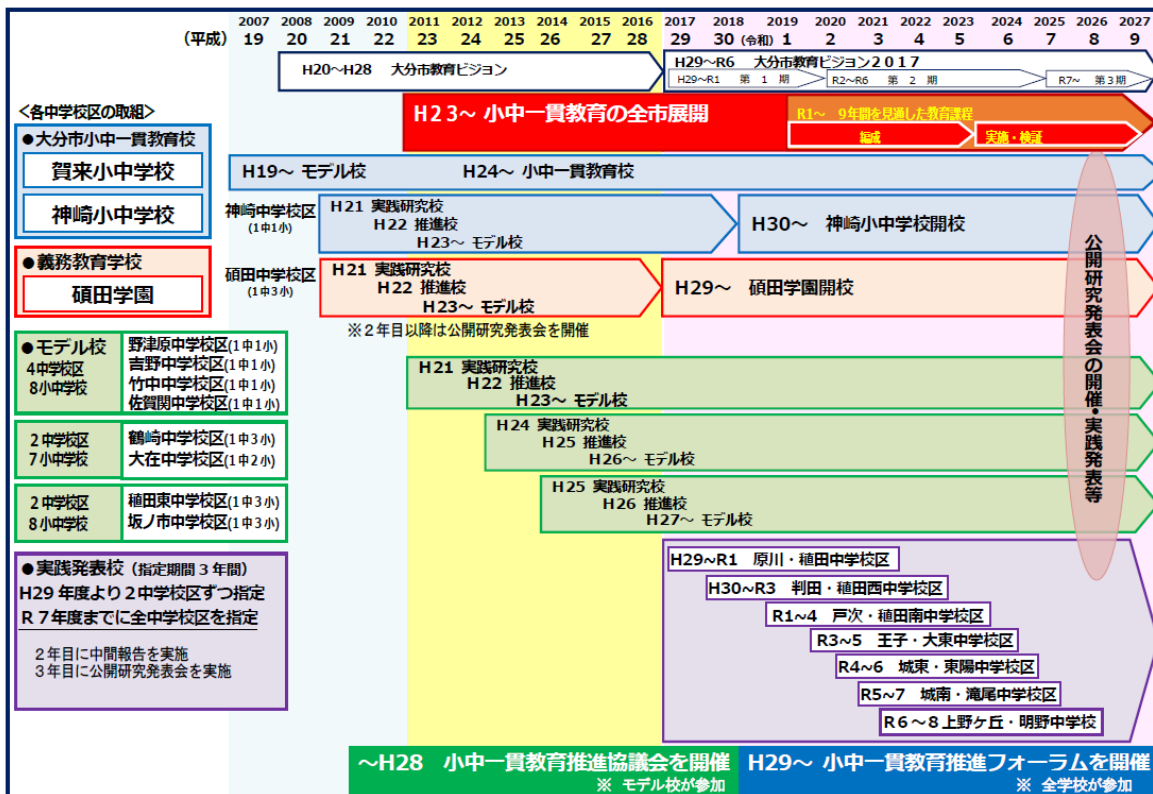
大分市では、子どもたちの心身の発達の変化や生徒指導上の諸問題、学力形成上の特質の違い等による小中の段差（いわゆる中1ギャップ）の軽減を図り、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成し、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を育む上から、義務教育9年間を見通した系統的な教育を行う小中一貫教育を推進しています。

## 基本方針

- 中学校区を実施単位の基本として、市内全中学校区において、学校や地域の実情に応じた小中一貫教育を推進する。
- 各中学校区で設定している目指す子ども像や教育目標等を、学校、保護者、地域で共有するとともに、目標の実現に向け、各教科等や各学年の指導の在り方を検討し、指導の改善を図る。
- 全中学校区において、公開研究発表会を実施し、学校、地域の特色を生かした系統的な教育活動の在り方などについて研究・発表することにより、その研究成果を学校間で共有し、取組の活性化を図る。

## 推移

平成16年度	小中一貫教育推進に係る研究に着手
平成19年度	小中一貫教育校として賀来小中学校を開校
平成21年度	吉野中学校区、竹中中学校区、佐賀関中学校区、神崎中学校区、野津原中学校区（1中1小型）及び碩田中学校区（1中複数小型）の計6中学校区を実践研究校に指定し、その後、同校区が推進校、モデル校として順次研究を進める
平成23年度	研究指定校の取組の成果や課題を踏まえ、市内全小中学校において小中一貫教育を展開
平成24年度	鶴崎中学校区、大在中学校区の2校区を大規模校における実践研究校として指定し、その後、同校区が推進校、モデル校として順次研究を進める
平成25年度	植田東中学校区、坂ノ市中学校区の2校区を大規模校における実践研究校として指定し、その後、同校区が推進校、モデル校として順次研究を進める
平成29年度	義務教育学校として碩田学園を開校 毎年度、2中学校区を実践発表校区に指定し、3か年計画で研究を進める
平成30年度	小中一貫教育校として神崎小中学校を開校



## 2 取組の概要

本市では、これまでの取組を通して、児童生徒の学力の向上や自尊感情の高まりなどに加え、教職員間の協働意識の高揚や小中学校間の系統性を踏まえた授業力の向上など、多くの成果が見られています。

各学校においては、こうした取組の成果を踏まえ、今後とも、自ら学び、自ら考える力などの生きる力を育むため、9年間を見通した系統的な教育課程を編成し、5つの視点に沿って小中一貫教育の推進に努めることが必要です。

視点1	目指す子ども像の共有	中学校区における目指す子ども像や取組の重点等について、小中学校の教職員間で共有を図る	関連 P.3
視点2	学びの連続性の確保	系統的な教育課程を基に、指導方法の工夫改善を図り、9年間の学びの連続性を確保する	関連 P.4
視点3	児童生徒の交流	合同行事や交流活動により、児童生徒が共に活動する機会を充実する	関連 P.5
視点4	教職員間の連携・協働	中学校区の取組の重点等に基づき、小中学校の教職員間の連携・協働を深める	関連 P.6
視点5	家庭・地域社会への情報発信	学校ホームページや広報紙を充実させ、小中一貫教育の取組状況や成果・課題等の積極的な情報発信を行う	関連 P.7

### 本年度の重点

- 学校や地域の特色を生かし、9年間を見通した系統的な教育課程の実施、改善
- 小中合同授業研究会等を通じた組織的な授業改善
- 小中一貫教育の取組状況、成果・課題の検証結果及び今後の取組について、家庭や地域社会への積極的な情報発信  
・学校ホームページや広報紙の充実

関連 P.8

### 各中学校区の取組

#### ■小中一貫教育全体計画及び年間指導計画等に基づく取組の充実を図る

- 全校又は特定の学年・集団での児童生徒の合同行事、交流活動(オンライン交流を含む)の実施
- 中学校区作成の9年間を見通した学習・生活のきまりの活用、改善
- 取組の成果・課題の検証を通じた指導計画等の改善 等

#### モデル校

#### ■これまでの取組の一層の充実を図り、研究成果等の還元を努める

- 小中合同授業研究会の公開等を通じた成果の還元
- 小中学校間での乗り入れ授業の実施 等

#### 【1中1小モデル校】

吉野・竹中・佐賀岡・野津原中学校区

#### 【1中複数小モデル校】

鶴崎・大在・稲田東・坂ノ市中学校区



柳ヶ堂フィールドワーク

#### 実践発表校

#### ■学校や地域の実情に応じた取組の充実を図り、研究成果等の還元を努める

- 小中合同研修会等を通じた計画的・継続的な研究の推進
- 公開研究発表会、中間報告等を通じた成果の還元 等

#### 【実践発表校】

城東・東陽中学校区(3年次) ※公開研究発表会

城南・滝尾中学校区(2年次) ※中間報告会

(大分市小中一貫教育推進フォーラム)

上野ヶ丘・明野中学校区(1年次)

### 大分市小中一貫教育校 買來小中学校 神崎小中学校 の取組



#### ■大分市小中一貫教育校ならではの特色ある取組の充実を図り、研究成果等の還元を努める

- 教職員に兼務発令
- 前期(1～4年)、中期(5～7年)、後期(8・9年)の3期に応じた教育活動
- 第1学年から英語教育を実施
- 中期での一部教科担任制の実施
- キャリア教育の推進
- コミュニティ・スクールの活用
- 9年間を見通した生活・学習のきまりの活用や各期別集会の実施
- 各種調査結果やデータの活用 等



買來フイインター  
イングリッシュキャンプ

### 義務教育学校 碩田学園の取組



#### ■義務教育学校として、9年間の連続性を重視した特色ある教育活動の展開に努める

- 日常的な異学年交流等による心育での充実
- コミュニケーション能力を育む教育の充実
- 前期(1～4年)、中期(5～7年)、後期(8・9年)の3期に応じた教育活動
- 第1学年から英語教育を実施
- 中期での一部教科担任制の実施
- コミュニティ・スクールの活用
- 9年間を見通した生活・学習のきまりの活用や各期別集会の実施
- 各種調査結果やデータの活用 等



吹奏楽コンサート

### 3 小中一貫教育の5つの視点に沿った具体的な取組

大分市では、以下の5つの視点に沿って、小中一貫教育の推進に努めています。

#### 視点1

目指す子ども像の共有

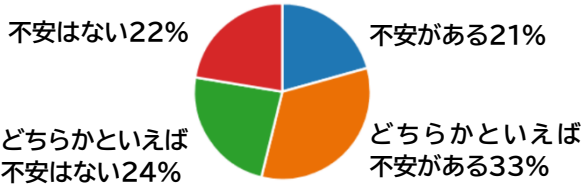
中学校区における目指す子ども像や取組の重点等について、小中学校の教職員間で共有を図りましょう。

#### 取組例

- 中学校区の児童生徒の状況や課題、義務教育9年間で身に付けておくべき力等について、小中学校間で共通理解の下、**目指す子ども像を設定**する。
- 小中学校間で目指す子ども像に基づく協議を重ねるなど、**共通認識を醸成**する。
- 目指す子ども像や教育目標等について、**学校ホームページ等を通して家庭や地域と共有**する。



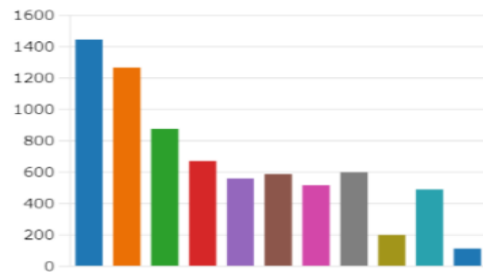
不安を感じている6年生 54%! ※令和5年度実施 全校調査より



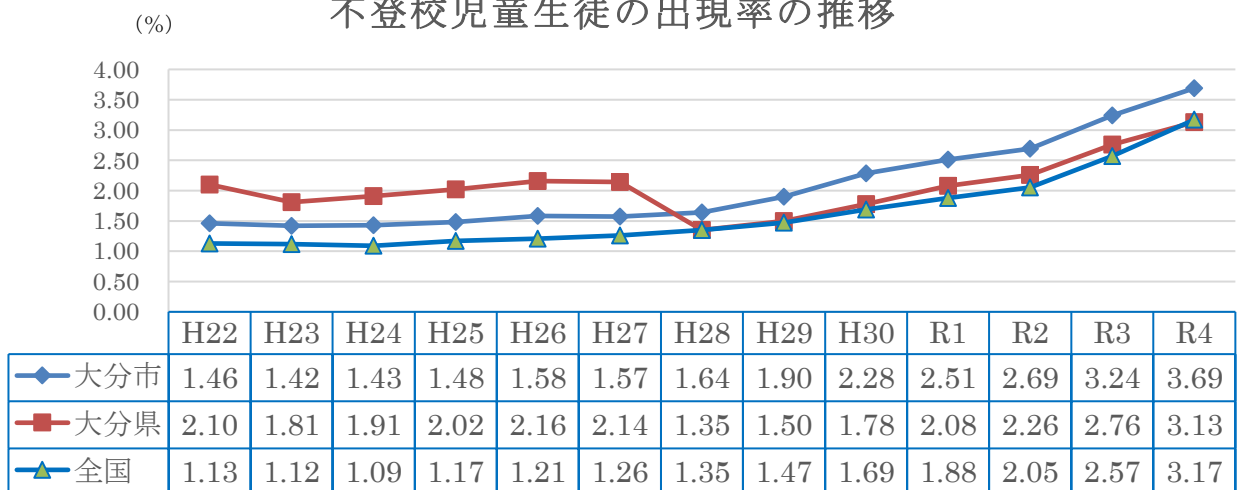
各学校の小中一貫教育の全校調査結果やhyper-QUの結果等各種調査結果を持ち寄り、これからの取組を考えていくことが必要です。

不安を感じていること

- 勉強
- テスト
- 友だち
- 先輩
- 先生
- きまり
- 部活動
- 進路
- 身体の成長
- 生活習慣
- その他



不登校児童生徒の出現率の推移



大分市の不登校児童生徒数は全国や大分県に比べて上回っており、中学校第1学年の新規の不登校は増えている現状があります。いくつかの中中学校区では子どもの実態を把握し、教育課程の改善を進めています。

#### 取組状況

- 研究テーマや研究仮説を修正しつつ、各校区で目指す子ども像に応じた取組が進められている。

#### 今後に向けて

- 小中学校間の円滑な接続を考え、中1ギャップの解消に取り組むために、目指す子ども像や重点目標、取組内容等の教育課程を改善することが必要である。

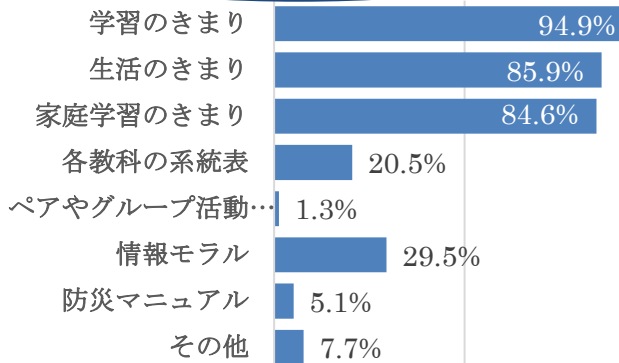
視点2  
学びの  
連続性の  
確保

系統的な教育課程を基に、指導方法の工夫改善を図り、9年間の学びの連続性を確保しましょう。

取組例

- 中学校区作成の9年間を見通した学習・生活のきまりを活用・改善する。
- 指導内容や児童生徒のつまずき等に応じた学習指導に係る系統表を作成・活用する。
- 授業展開や板書構成、ICTや思考ツールの活用等の授業づくりについて、小小・小中で統一したり系統性をもたせたりする。

きまりや系統表等の作成状況

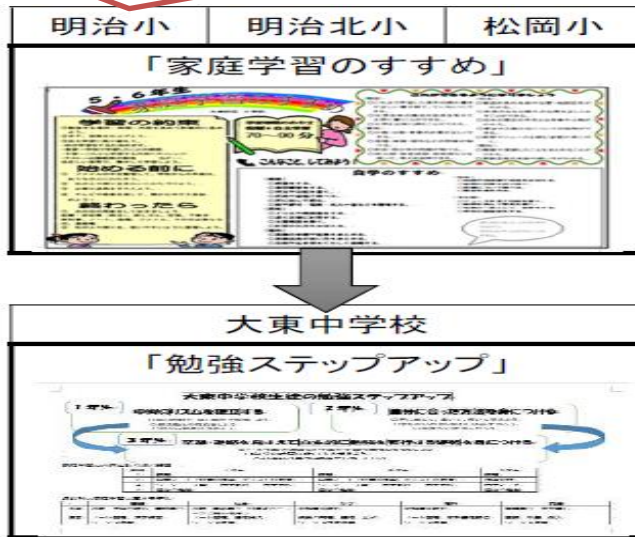


※R5年度取組状況調査より

※大東中学校区の  
研究内容より

勉強ステップアップ

家庭学習については、早い段階からの習慣化が必要です。中学校に入学してからの家庭学習の定着は簡単ではありません。大東中学校区では、9年間を通じた家庭学習や自主学習についての指導を中学校区で組織的・継続的に取り組んでいます。



家庭学習における学校段階間のギャップ

(例) 小学校「学年×10分」

中学校「学年+1時間」

小6で1時間、中1で2時間と中学校で家庭学習が2倍となっています。

取組状況

- 各中学校区の研究内容に応じて、学習・生活のきまりや指導内容の系統表等の作成・活用が進んでいる。
- 授業展開や板書構成、ICTや思考ツールの活用等の授業づくりについて、小中で統一したり系統性をもたせたりすることで、組織的な授業改善につながっている。

今後に向けて

- 各中学校区で学力調査の結果を分析したり、課題となる教科を小中合同授業研究会で取り組んだりする必要がある。

全国学力・学習状況調査結果(大分市)

【小学校6年生】

	国語	算数
市	69	66
県	69	64
全国	67.2	62.5

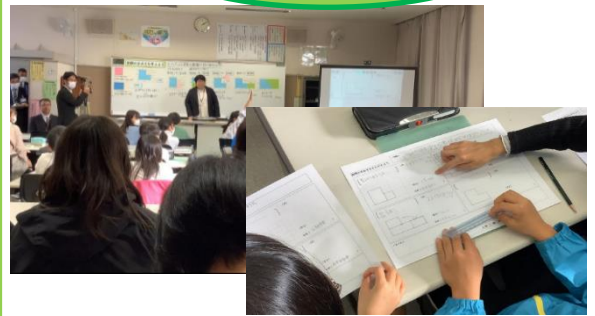
【中学校3年生】

	国語	数学	英語
市	68	49	42
県	69	49	41
全国	69.8	51.0	45.6

中学校では国語、数学、英語の3教科とも全国を下回っています。校区の学びの連続性を確保することが必要です。

※王子中学校区の  
研究内容より

研究発表会



研究発表会 検証の視点

- ①子どもの思考から課題を設定
- ②意図的なペア・グループトーク
- ③お互いの考えを伝え合う場の工夫

小学校の教員と中学校の教員とで連携して授業改善に取り組む中で、授業での指導方法等を緩やかに設定し、継続させていく取組が増えてきています。こうした取組により、学年や学級が変わってもより多くの子どもたちが見通しをもって授業に臨みやすいといった効果が期待されます。王子中学校区では、児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を取り入れるなど基本的な授業の流れを決めて取り組んでいます。

視点3

児童生徒の交流

合同行事や交流活動により、児童生徒が共に活動する機会を充実しましょう。

取組例

- 児童会・生徒会活動の様子を写真や紙面で交流したり、校内に掲示したりする。
- あいさつ運動や清掃活動等、中学校区共通の取組について、オンラインで意見交換会を行う。
- 学校間で学習成果や作品の回覧・交流を行ったり、文化発表会を見学したりする。
- 中学校区共通の手話合唱曲を決め、その様子を動画撮影し、各校で見合う。
- 職場体験学習や読み聞かせ、体験入学等において、母校の小学生と交流する。
- 環境保全や美化活動等の地域行事に小中合同で参加する。

※城南中学校区の取組より

一人一人の心が学年やクラスで一つになっていて、とても美しい歌声になっていた。

小学生のメッセージを読んで、ますます頑張りたいと思いました。メッセージありがとうございました。



自分もみなさんのような中学生になりたいと思いました。

モデル校

義務教育学校

※野津原中学校区の取組より

「のつはる知っちよるかえクイズ」!

※碩田学園の取組より

一心同体!  
~1人ひとりがメインカラー~  
体育大会の練習の様子

※竹中中学校区の取組より

7年~9年の部活動紹介

小学校6年生と中学1年生による「郁々堂」見学

陶芸教室で作った児童生徒の作品も展示!

竹中地区合同文化祭の様子

小中一貫教育校

※吉野中学校区の取組より

吉野を大切に、守り続けたい。

賀来小中学校の取組より

神崎小中学校の取組より

小学校3年生と中学1年生による吉野梅園清掃の様子

中期の期別集会

5~9年生の書き初め大会

取組状況

- 児童生徒が一堂に会することができない場合も、中学校区共通の活動をそれぞれ行ったり、オンラインで交流したりすることにより、児童生徒の協働意識や自尊感情の高まりにつながる事が期待できる。

今後に向けて

- 児童生徒自身が、交流の目的やよさを実感し、学校や地域の一員としての自覚をもつことができるよう、継続的に指導することが大切である。

視点4

教職員間の連携・協働


各中学校区の取組の重点等に基づき、小中学校の教職員間の連携・協働を深めましょう。

取組例

- 小中合同研修会を通じた重点目標や指導計画等の作成及び取組の評価・改善
- 小中合同授業研究会や互見授業を通じた授業改善
- 合同学力向上会議・学力分析会議等の開催及び共通理解
- 学習・生活のきまりに基づいた指導

※東陽中学校区の取組より

音楽ミニ講座



歌唱指導のポイント、参考にできそう。

思いつき歌うことの楽しさやみんなの声を合わせた時の充実感を味わうことができた。

子どもの興味を知ろうとすることは授業力の大切な部分だと感じた。教員がわくわくしながら面白いと思うような教材は児童生徒にも伝わると思う。そんな教材を準備したい。


理科ミニ講座

それぞれの学校の子どもたちの良いところや伸ばしたいところ、小中一貫教育の導入により重点的に取り組みたいことなどについてワークショップ等を通じて話し合うことが教職員間の共通認識を醸成することとなります。その際、共通の尺度を用意したり、各種調査などの客観的なデータを基にしたりして議論することが有効です。

例えば、各種調査を中学校区としてデータを細かく取り、分かりやすい形で可視化して共有することも考えられます。意識的なプロセスがないと、当事者意識は生まれず、取組が形骸化したり、多忙感が増したりすることになりかねません。

※滝尾中学校区の取組より

調査・研究部会



調査・研究部会をつくることで、中学校区の課題をしっかりと捉えることができます。

**滝尾中学校区意識調査の項目の一部**

1. 中学に入学し、現在も不安がありますか。  
とてもあてはまる  
あてはまる  
あまりあてはまらない  
あてはまらない
2. 不安がある場合は、どのような不安ですか。  
 勉強・テスト・友だち・先輩・先生・きまり・部活動・進路・身体の成長  
 その他 等

部 会 名	
調査・研究部会	生活指導生徒指導部会
「特別の教科道徳」部会	特別支援教育部会
学力向上部会	保健・食育部会
体力向上部会	教育課程部会

取組状況

- 児童生徒の姿に基づき、課題や手立てを共通理解することは、「義務教育の9年間に責任を持って教育活動を行うこと」などの意識付けにつながる事が期待できる。

今後に向けて

- 校区の状況に応じて、組織や体制の見直しを柔軟に行っていくことも考えられる。

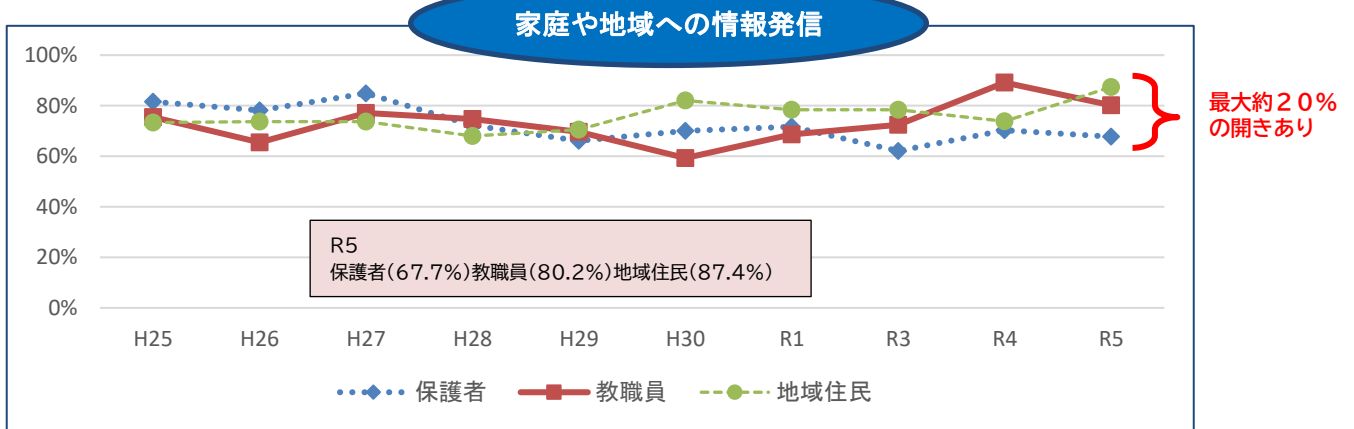
視点 5

家庭・地域  
社会への  
情報発信

学校ホームページや広報誌を充実させ、小中一貫教育の取組状況や成果・課題等の積極的な情報発信を行いましょ。

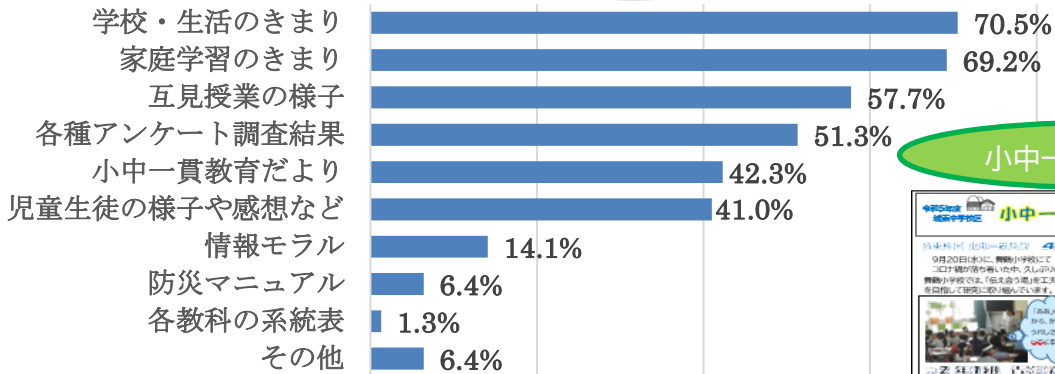
取組例

- **情報発信の場の工夫**  
…学校ホームページ、小中一貫教育だより、学校だより、懇談会、学校運営協議会 等
- **発信する内容の充実**  
…全体計画や年間指導計画、重点目標、小中合同研修会や児童生徒交流等の取組の様子、児童生徒の感想、中学校区で作成している各種手引き（学習・生活のきまり、家庭学習の手引き、情報モラルのマナー等）、各種アンケート調査の結果 等



保護者の学校からの情報発信についての評価は、地域住民に比べ20%低くなっています。他校の様子、中学校の様子、地域や学校との連携の様子等、保護者のニーズに合わせた情報発信を工夫することが必要です。

発信している情報内容



小中一貫教育だより



※城東中学校区の取組より

人権宣言作成の様子



城東中学校区人権宣言

私たちは、みんな平等に愛し愛される権利と実態を守るために、城東中学校区の仲間たちと支え合い、次のことを守ることを宣言します。

1. 仲間との明るく元気なあいさつを大切にします。
1. 仲間の多様な個性や良さを認めて、大切に、助け合います。
1. 仲間の小さな変化に気づき、言葉で伝えます。

取組状況

- 学習・生活のきまりを懇談会や学校ホームページで知らせたり、中学校のテスト週間に合わせた「家庭学習習慣化ウィーク」を設けたりするなど、校区の実情に応じた家庭や地域との連携に努めている。

今後に向けて

- 学校ホームページや広報誌の充実に引き続き取り組んでいくことが大切である。
- 情報モラルの問題については、小中で連携して取り組んでいくことが求められる。
- 学校評価の項目に取り入れるなど、小中一貫教育について、地域住民等の理解や協力が促進されるよう努める必要がある。



## 4 本年度の重点

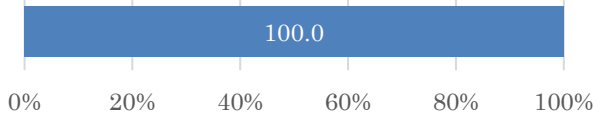
### 重点 1

#### 学校や地域の特色を生かし、9年間を見通した系統的な教育課程の実施、改善

各学校では、昨年度までに9年間を見通した系統的な教育課程の編成を終え、全面実施することとしており、適宜、改善に努めていくことが大切です。

小中学校間の円滑な接続を考え、中学校区の課題を分析し、中1ギャップの解消に取り組むなど、教育課程を改善することが大切です。

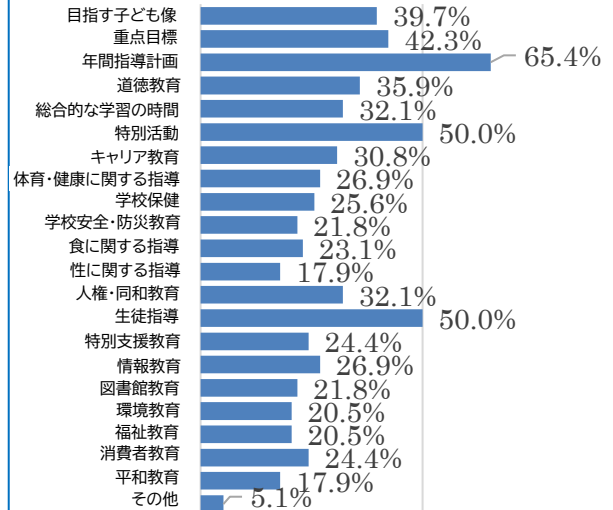
教育課程の改善の実施率



#### 円滑な接続のための例

- 中学校 1年1学期の間は細やかな指示を出す
- 小学校と同様、「～さん」と呼ぶ 等

改善した教育課程の項目



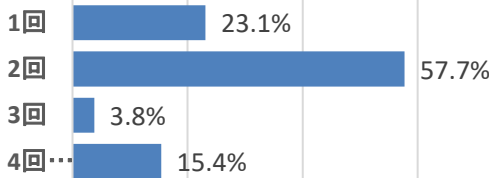
### 重点 2

#### 小中合同授業研究会等を通じた組織的な授業改善

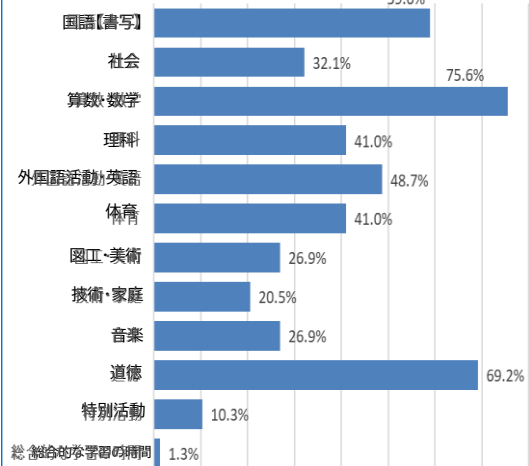
各中学校区の研究主題に基づき、9年間を見通した学習・生活のきまりや、各教科の基礎・基本の一覧、ペアやグループ活動の系統表等が作成されています。また、こうしたきまりや系統表等を基に、授業展開や板書構成、ICTや思考ツールの活用等の授業づくりについて、児童生徒の発達の段階に応じた取組が推進されています。

今後も引き続き、小中合同授業研究会等を通し、組織的な授業改善に努めていくことが大切です。

R5 小中合同授業研究会の回数



R5 実施教科



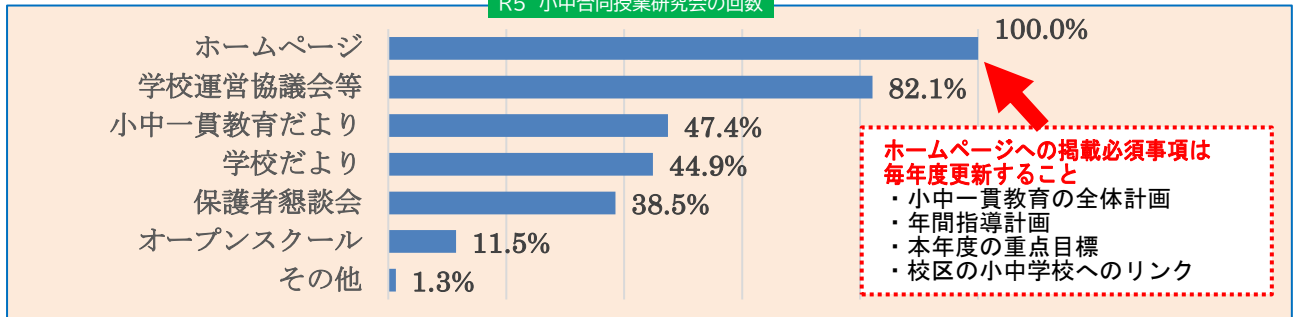
### 重点 3

#### 小中一貫教育の取組状況、成果・課題の検証結果及び今後の取組について、家庭や地域社会への積極的な情報発信 ・ 学校ホームページや広報紙の充実

各学校では、学校ホームページ等を通じて、小中一貫教育についての情報発信が行われています。

令和4年度の取組状況調査によると、ホームページや広報紙に加え、75.6%の学校で学校運営協議会制度等を活用した情報発信が行われており、今後も、各中学校区で育成を目指す子ども像や教育目標などを、学校、保護者、地域で広く共有していくことが大切です。

R5 小中合同授業研究会の回数



## 5 小中一貫教育に係る意識調査の結果

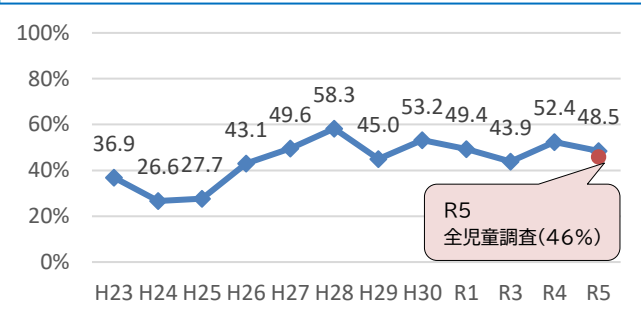
### 意識調査の結果

これまでの取組を通して、中学校進学への不安感の軽減や児童生徒の豊かな心の育成への効果、教職員の協働意識の高まりや9年間の系統性を踏まえた授業力の向上など、一定の成果が見られています。

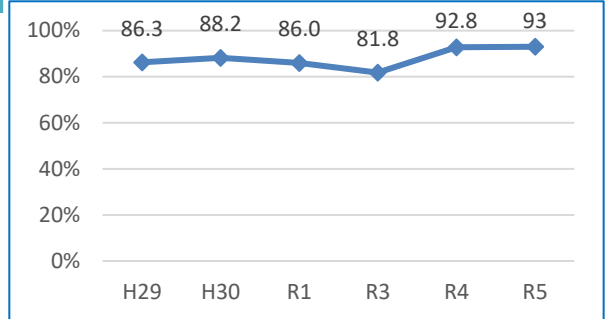
※各項目について、肯定的な回答が得られた割合を算出しています。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査を実施していません。

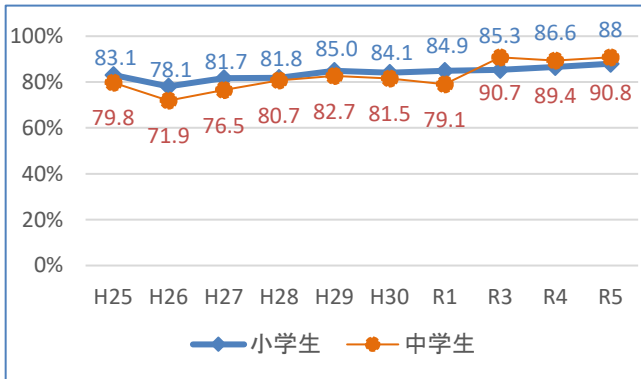
#### 中学進学に不安はない（小学6年生）



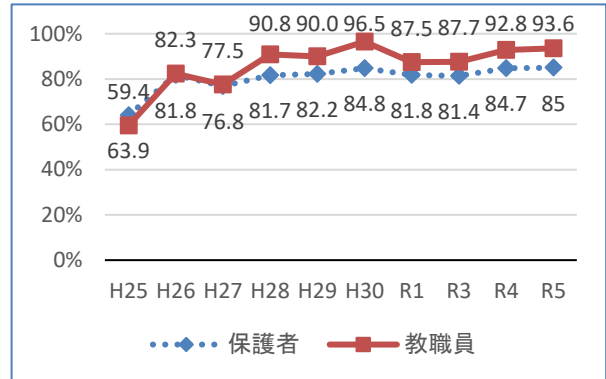
#### 「学習・生活のきまり」を守っている（児童生徒）



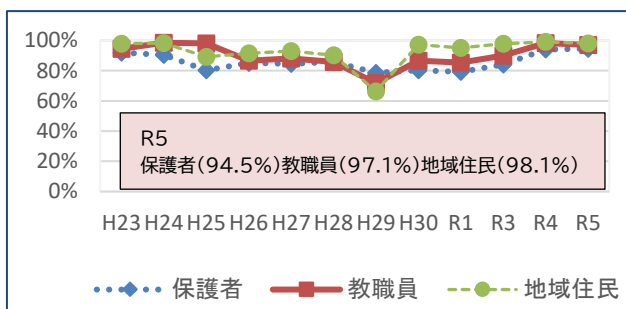
#### 中学生のようにになりたい（小学生） 先輩としての自覚がある（中学生）



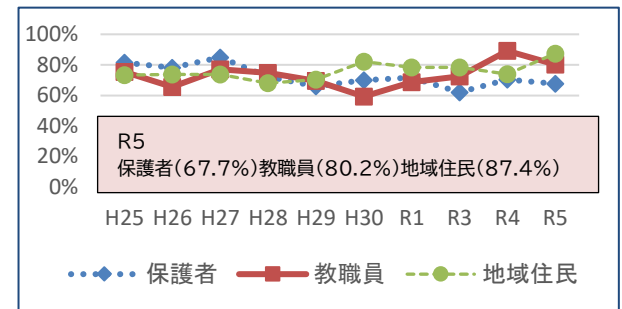
#### 小中一貫教育の取組は中学進学への不安感の軽減に効果がある（教職員・保護者）



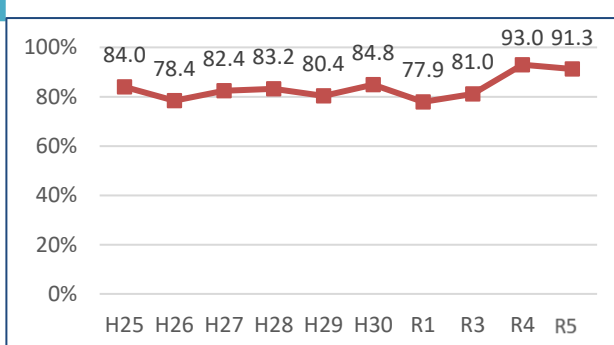
#### 合同行事等は豊かな心の育成に効果がある（保護者・教職員・地域住民）



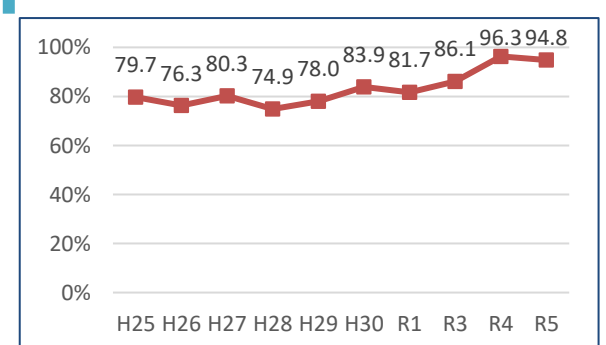
#### 学校は家庭や地域に積極的に情報発信している（教職員・保護者・地域住民）



#### 小中の系統性を踏まえて授業をしている（教職員）



#### 目指す子ども像を教職員間で共有し、主体的に小中一貫教育を行っている（教職員）



## 6 小中一貫教育推進フォーラムについて

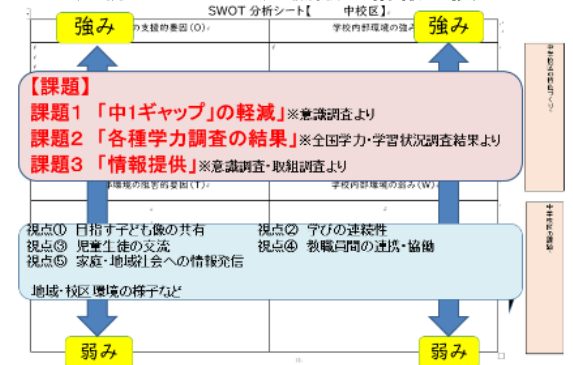
本市の小中一貫教育における成果の還元や今後の小中一貫教育の在り方について理解を深めることを目的として、平成29年度から「小中一貫教育推進フォーラム」を開催し、専門家による講義や実践発表校による研究報告、グループ別協議等を行っています。令和5年度の開催状況は以下の通りです。

日時	令和6年2月21日（水）14:00～16:30	
内容	実践発表	1 城東中学校区 2 東陽中学校区
	指導助言	大分大学教育学部教授 伊藤 安浩 氏
内容	SWOT分析	
	グループ別協議・情報交換	
内容	全体講評	大分大学教育学部教授 伊藤 安浩 氏

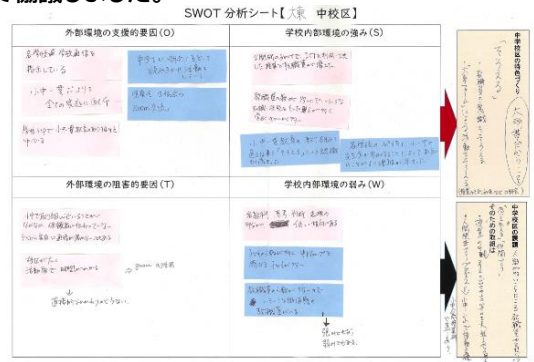
### 伊藤教授による講評（抜粋）

- ・ 中1から不登校になった子どもの話より  
「中学校になって授業で初めてあてられた時に答えられなかった。答えられないことで頭の中が真っ白になり、自分が内容についていけないことを思い知らされ、それ以来、教室に行けなくなってしまった。」  
中学校の1年生の4月、5月は緊張して授業に臨んでいる。1学期の間は、特に、小中で連携した対応を重点的に行うことが必要であると感じる。
- ・ カリキュラム・マネジメント  
学年の系統図、教科における系統図を各学校で作成しているのは大きな意義がある。教科については学習指導要領に基づいて教科書が作られているので、最低限の系統性は確保されているが、子どもの姿を思い浮かべ同僚と意見交換し、先生方ご自身の言葉で言語化してみる。言語化したものを共有していくことは大きな意義があり、今後も充実させる必要がある。  
先生方の気づきを何らかの形で記録しておくことで教育課程の編成の際に集約できるようにしておく、実質的な教育課程の改善につながる。
- ・ 家庭への情報発信  
家庭への情報発信は、子どもの気持ちを学校へ向かせ、学習への構えを作っていく基礎となる。小中一貫教育だより、家庭教育の手引き、学習の規律等を家庭に伝えるように工夫していくと不登校の減少、学力の向上につながる。

### SWOT分析 グループ別協議・情報交換



意識調査から見てきた課題①中1ギャップの軽減②学力③情報提供の3点を中心に分析をしながら、各中学校区ごとに中学校区の課題や来年度の取組について協議しました。



## 7 本年度の予定

### 令和6年度小中一貫教育公開研究発表会

研究指定（年次）	校区名	開催予定日
実践発表校（3年次）	城東中学校区	令和6年11月22日（金）
	東陽中学校区	令和6年11月12日（火）

### 令和6年度小中一貫教育推進フォーラム（中間報告）

研究指定（年次）	校区名	開催予定日
実践発表校（2年次）	城南中学校区	令和7年 2月18日（火）
	滝尾中学校区	



## 8 お知らせ

各ページで紹介した実践発表校の研究成果（学びの系統表や学習・生活のきまり等）について、Te-Comp@ssのファイル管理に掲載しています。ぜひ参考にされて下さい。

Te-Comp@ssのファイル管理≫03\_各種教育情報≫01\_市教委≫02\_学校教育課2[指導担当班]≫11\_大分市小中一貫教育